

公務災害防止事業の推進

▶ 安全管理セミナーを実施して ◀

群馬県桐生市

1. はじめに

桐生市は、群馬県の東南部に位置し、栃木県足利市と接し、西は赤城山まで達しています。東京には、直線距離で約90キロメートル、車で約2時間、JR（新幹線経由）または東武鉄道で約1時間40分で結ばれています。

市街地には、渡良瀬川と桐生川が流れ、山々が屏風状に連なり、水と緑に恵まれた地に歴史と伝統が息づいています。

名産品である桐生の織物の起こりは古く、江戸時代には、「西の西陣、東の桐生」とうたわれ、織物の一大産地となりました。織物産業の繁栄を今に伝える町並みがいたるところに残り、のこぎり屋根の織物工場や土蔵造りの店舗など近代化遺産の宝庫となっています。

2. 桐生市消防団の概要

桐生市消防団は、1団本部と26箇分団で組織され、現在の総人員は517名（うち女性団員16名）、消防ポンプ自動車26台で編成されています。

年間行事には、出初式、秋季点検、水防訓練の他、歳末夜警、火災予防運動に伴う火災予防啓発活動など、地域との連携を密にしながら地域防災の要として住民との信頼関係を築いています。

3. 安全管理セミナー開催の経緯

当消防団では、年間を通して様々な研修を開催しております。

新入団員を対象とした消防団員としての基礎を学ぶ「新入団員研修」、ラッパ隊員を対象に、

それぞれの力量に合わせ基礎から応用までを学ぶ「ラッパ隊員研修」、機関員を対象にポンプの構造や緊急走行の法令及び特性を学ぶ「機関員研修」などを開催しています。

また、近年は、団員の高齢化が進み、災害現場や訓練などで団員が負傷する事例や疾病によりやむを得ず退団する事例がありました。

普段の生活面から見直しを行い、健康な体を作り、事故を未然に防ぎたいという思いから、団員を指揮する立場の幹部団員を対象とした「安全管理セミナー」を消防団員等公務災害補償等共済基金様の御協力のもと開催しました。



4. 安全管理セミナーの様子

平成30年7月14日（土）に桐生グランドホテルにて、消防団幹部団員148名、消防職員11名が参加し、安全管理セミナーが開催されました。

講義では、危険事象発生の原因や指差し呼称で確認行動を行い、タッチ・アンド・コールで一体感を高める消防団危険予知訓練（S-

KYT)にも触れていただき、参加者は、真剣な表情で講師の話に耳を傾け、意識の高まりを感じました。



アンケートでも、「現場に潜む危険要因を平時から考えておくことは、安全対策に取り組むうえで必要不可欠である」、「安全管理の重要性、団員を指揮する立場の心構えが理解できた」、「普段の健康管理がいかに大切か分かった」などの声があり、今後の消防団活動に活かしていけるものと確信しました。



5. 今後の取り組みについて

桐生市消防団は、「公務災害」ゼロを目指し、これからも訓練・研修を継続して行うとともに、今回研修に参加していない団員にも研修で得た知識を周知していきたいと考えております。

終わりに、今回の研修で御協力いただいた小山講師並びに消防団員等公務災害補償等共済基金の皆様へあらためてお礼を申し上げます。